

景観まちづくり学習助成事業実施校 学校名 横浜市立 子安小学校

① 学習指導案

プログラム	No. 8「わたしたちのまちに言葉の贈りもの」
単元名 (全70時間)	コマドリ (No. 8「わたしたちのまちに言葉の贈りもの」)
学習のねらい	子安のまちの景観や歴史的な変化を調べる活動を通して、その中で培われてきた人々の思いを知る。そうして形成された子安のまちには、自分達の活動を温かく見守ってくださる方がいらっしやり、その方への感謝の気持ちをもつ。その気持ちを表現・発信する活動を通して、今後も地域の一員として、まちを大切に、自分ができることを考えようとする力を身に付ける。
学習内容	1 StopMotionAnimeの作り方を知る。 2 グループで一つの作品を作る。 3 子安のまちの景観や歴史的な変化・人について調べる。 4 3調べたことを、StopMotionAnimeで表現する。 5 自分達の作品を校内と地域へ発信する。
参考資料	地域の知事会長や60代以上の卒業生にインタビューをさせていただく
準備品	子安小が移転していることが分かる地図
実施場所等	コマドリストの竹内泰仁先生に講義をしていただくように依頼する。

学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
	StopMotionAnime (以降、コマドリ) を作る。	全員のiPadにコマドリ作成用アプリ StopMotionStudioをインストールして、思い思いの作品を作る	主体的に自分の作品を作ることができる
	グループ毎に条件に合わせたコマドリ作品を作る	「主人公に消しゴムを使う」という条件で、グループで協力して、作品を作る。	友達の作品を見合い、改善点を指摘しあう。友達の作品の良さを味わうことができる。

	<p>コマドリグランプリを開催する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・竹内先生を紹介して、プロに自分達の作品を審査していただく、コマドリグランプリを開催する。 ・プロの仕事に対する思いや生き方を知るために、竹内先生に簡単な作品を作りながら、そのときに気を付けるポイントなどを教えていただく。 ・それぞれの作品に共通する課題と改善点をご指摘いただく。 ・コマドリの技術向上とコマドリを作成するときの協力の仕方を学ぶため、コマドリグランプリを数回開催する。 	<p>自分の作品の改善点を考えながら聞き、プロの仕事に対する思いを感じ取る。</p> <p>プロの作品の作り方を見て、自分の作品を比較することができる。</p>
	<p>子安のまちの景観や歴史的な変化・人について調べる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昔の子安小の場所を地図を使って調べる。 ・当時のまちの様子やどのように変化してきたのか、また、それをどのように受け止めてこられたのかを知るため、自治会長や60代以上の卒業生にインタビューをする。 	<p>子安小には、脈々と受け継がれてきた、あたたかい人間性が宝物であることに気付く。</p>
	<p>子安のまち（学校）の魅力とは一体なんだろうか。</p>	<p>インタビューで調べたことを共有し、板書にまとめ、共通点を浮かせるようにする。</p> <p>自分たちの特徴とインタビューから見つけた子安小の魅力をまとめて、自分たちの作品のテーマにする</p>	<p>魅力が書かれている言葉集から共通する項目を見付け、子安小の魅力が何かを見付けることができる。</p>
	<p>子安のまちの魅力をコマドリで表現する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「子安のまちの魅力」をテーマにして、コマドリ作品のストーリーを文章で作る。（モデルプログラム） ・「子安小の魅力」をテーマに、コマドリ作品を作る。 ・出来上がった作品をクラスで見合いより良い作品へと改善し、最後に 	<p>自分達の作品を批判的に見て、自分達の作品が子安小の魅力を表す作品になっているか、判断し友達同士伝え合うことができる。</p>


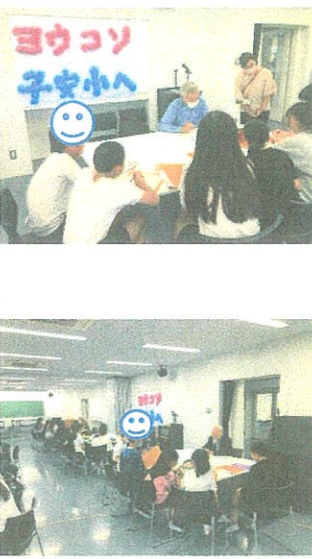

		竹内先生にアドバイスをいただく。	
	自分達の作品を発信して、 子安のまちに届ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで自分達の成長を見守ってくれた保護者に向けて、卒業式で上映する。 ・次年度の新入生が子安のまちのすばらしさや新入生の保護者が子安小で6年間学習をするとこまで力が付くことを知るため、入学式で上映する。 ・自分達の活動を支えてくださった地域の方に自分たちの作品を知っていただくため、竹内先生のHPに作品をアップロードする。 	


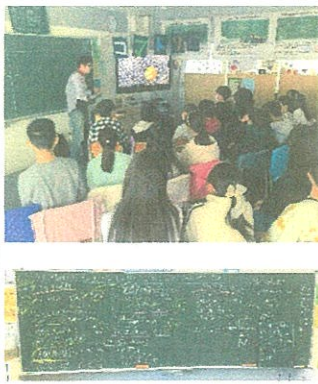
<留意点>





② 事業実施報告書詳細

学校名

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
5	教室	StopMotionAnime(以降、コマドリ)を知るために、手本となる作品を分析すると共に、作品作りに必要な環境を整える。	コマドリアプリをインストール後、お手本になる作品(今後の講師となる竹内氏の作品)を分析する活動を通して、コマドリの魅力を知り、コマドリを作りたいという思いを膨らませる。	コマドリには、アニメや動画にはない面白さがある。現実社会とファンタジーの丁度中間のような魅力がある。もっと、上手に作れるようになりたいな
4	教室	「消しゴムを主人公にする」「舞台は自分の机の上」という、2つの条件で作品を作る活動を通して、コマドリ作成アプリの使い方やコマドリの魅力について知る。		消しゴムが動いた！でも、なんかワープしてみたいで上手く動いてくれないな。もっと滑らかな動きの作品にしてみたいな。

5	教室	コマドリでどういう作品を作ったらよいか話し合う。		子安小学校は、150年の歴史のある学校。虹の橋やステンドグラス、大きな校舎とかが魅力だと思うけど、他の人にも聞いてみたい。そう、卒業生にインタビューしよう。
15	教室 多目的室	<p>卒業生（60代以上の方々）にインタビューをして、昔の子安小学校について知ろう。</p> <p>60代以上の卒業生にインタビューを行い、今と昔の子安小学校の共通点を見つけ、それを作品のテーマにする。</p> <p>テーマを「優しい」「明るい」「協力」「楽しい」に決める。</p>		昔は尋常小学校って呼ばれていたんだ。昔も今と同じで運動会は、みんな協力して、本気でやっていたんだ。子安にも差別みたいなものがあったけど、それでも学校では仲が良かったってすてきな。昔の6年生は、一年生をおんぶして遠足から帰ってくるなんて、すごく優しいな。こういう素敵なところを子安小の魅力として大切にしていきたいな。
15	校庭 体育館 教室 廊下 理科室	<p>グループ毎に分かれて作品作りを行い、友達同士作品を見合う。</p> <p>改善した内容を一年生に発表し、子安小学校の魅力を伝わったか検</p>		大人から子どもまで楽しんでもらえる作品を作りたいな。一年生がめちゃくちゃ笑ってくれてる！

		<p>討する。</p>		<p>でも、一年生の笑いのツボが分からないよ！ どうやったら、作品をよくできるか、プロに聞きたいな</p>
<p>17</p>	<p>校庭 体育館 教室 廊下 理科室</p>	<p>自分たちの作品を見合い、アドバイスを基に改善する。</p> <p>プロの先生竹内氏に作品を見ていただき、アドバイスをいただく。</p>		<p>プロは3か月もかけて一つの作品を作っているんだ。ぼくも竹内先生みたいなまるで生きているような作品んを作りたいな。</p> <p>竹内先生のアドバイスを聞いたら、子安小の魅力を伝えるにも、ストーリーが大切なんだと分かったよ。</p> <p>竹内先生に認めてもらえるような作品を作りたいな。</p> <p>早く修正をして、お世話になった方や来年の一年生に</p>

				見てもらいたいな 。
4	幼稚園 2園	子安小学校の魅力を地域に広げるため、幼稚園に行き来年の一年生に発表する。		幼稚園の子たちを怖がらせちゃいけないから、いつもよりも明るく！元気よく！盛り上げて発表しよう！ 来年の一年生は、喜んでくれたのかな？ 早く子安小に行きたいなって言ってくれたよ！
4	体育館	インタビューをさせていただいた卒業生や地域の自治会長、保護者に発表することで、自分達を見守ってくださった方への感謝の気持ちを伝える。	 	この前の幼稚園の発表と同じように、明るい雰囲気自分達らしさを出して発表したいな。 でも、大先輩だから、言葉は敬語にして発表しようよ。こんな大きな舞台緊張するな。 僕たち、コマドリを始めたときは、知らないことばかりだったのに、今はコマドリを教えられるようになるなんて思ってもみなかったな。卒業生も拍手してくれたよ
1		一年間自分達の活動を通してどんな力が身に付いたのかを考え、自分達の活動に価値を見		僕たちこんなにたくさんできるようになったんだな。 子安小の魅力って

		出す		、今じゃ6年4組の魅力になったよな。 また、コマドリみたいな授業に出会いたいな。
--	--	----	--	---

③ 実施内容について

<p>(1) 実施にあたり工夫した点</p> <p>コマドリアニメとは、連続写真を使ったアニメーションである。写真の並びを意図的に工夫することで、鉛筆や消しゴムといった実際に存在するモノが、現実世界ではありえない動きをして、視聴者を楽しませることが出来る点がこの材の良さである。通常のアニメーションと違い、絵の上手い下手など関係なく、写真を撮るための道具（iPadなど）があれば、全児童が同じ土俵で活動に取り組むことができる。この材を採用したこと自体が今年度の総合の最大の工夫と言える。</p> <p>そのままでは、作りたい作品を作ってしまうため、テーマを子安小の魅力、目的を6年間お世話になった方への感謝の気持ちを伝えるためと設定した。子どもが自主的にその思いに至ったように設定するため、地域の子安小の卒業生にインタビューをして、今の子安小と昔の子安小の魅力を分析し、共通点を見出す活動を通して、子安小の魅力は子ども自身であることに気付かせることができた。</p>
<p>(2) 実施にあたり苦労した点</p> <p>コマドリという表現媒体が、作文や劇といった表現媒体に比べると心情の変化や登場人物の思いを表現することを得意としない。そういう表現媒体の中で、子どもが見つけた「優しい」「明るい」「協力」「楽しい」をどうやって、作品にしていくかという点。</p> <p>どこまで作品を改善していったら、ゴールになるのかが分からないという点。</p> <p>そこで、コマドリという作品のゴールを決めていただくために、プロのコマドリスト竹内泰仁先生に何回かご講和と批評をしていただき、竹内先生が認める作品を作るという目標のもと試行錯誤を繰り返しながら、活動に取り組むことができた。</p>
<p>(3) 児童の反応</p> <p>とにかく活動を楽しみながら、思い思いの作品を作ることができた。はじめは、ただ消しゴムがまるで生きているように動く様子を多くの児童が楽しんでいて、見合いを繰り返していくと、ただ消しゴムが動くだけの作品よりも、ストーリーのある作品の方が面白いことに気が付いていた。（例えば、定規の怪獣が鉛筆の炎をはく。それを消しゴムの勇者が倒すような作品）次々と作品を作っては互いに見せ合い、互いに技術を高めていった。</p>

ある程度技術が高まったところ、子ども達からグループで活動に取り組みたいという声が上がった。総合の立ち上げの段階で、子安小の魅力をテーマにした作品をしたいと決まっていたので、その魅力について話し合った。子どもの感じている子安小の魅力は、「虹の橋」や「ステンドグラス」、「二宮金次郎像」といったモノがほとんどであった。そこで、ずっと子安のまちで自治会長などを務めている卒業生の方にインタビューを行った。戦時中の子安小の給食や遠足で疲れてしまった一年生を六年生が背負って学校までかえてきたというエピソードを聞き、子ども達は、大きな衝撃を受けていた。そして、子安小学校の魅力は、優しさや協力する気持ちなど、子安小学校に通う子ども達の心に受け継がれているものであると気が付き、それを表現するために友達と協力しながら作品作りをすることができた。

当初、自信をもつことができず挙手をして全体で発言することが苦手な児童が多かったが、コマドリの学習を通して、自分の考えを伝えることで友達の作品がよくなったり、同じ考えでも発表したりすることでそこに価値が生まれることに気が付き、3月にはどの教科でも多くの児童が挙手をして自分の意見を発表したいクラスへと変化していった。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕

今回の材は、モノづくりと呼ばれるジャンルであるため、作品を作りそれを友達と見合っ
て改善を繰り返していくタイプの総合である。そのため、技術的なものや講師の竹内先生に
対する思いやキャリア教育という点においては、一定の成果をだすことができた。

しかし、地域の方々への感謝という点に関しては、もっと改善の余地があったと思う。自
分達から感謝の手紙を書こうとしたり、ふりかえりの中に「自分達の活動は、卒業生（地域
の方）の存在なくしては、なりたつことはなかった」と多くの児童が記載したりしている。
こういう思いを育てることが出来たからこそ、もっともっと、地域とのつながり、自分達に
は、学びを見守ってくださる多くの大人がいることに目を向けさせてあげることで、また違
った形の表現ができたかもしれない。この点に関しては、次年度以降の課題としていく。